

病防第69号  
平成27年8月5日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成27年度病害虫発生予察注意報第3号を公表しましたので、送付します。

## 注 意 報

平成27年度病害虫発生予察注意報第3号

農作物名 トマト  
病害虫名 トマト葉かび病

- 1 発生地域 中山間地（夏秋栽培地域）
- 2 発生時期 収穫期
- 3 発生程度 多
- 4 注意報発表の根拠

- (1) 7月16日に中山間地の夏秋トマト栽培地域6地点で実施した調査では、3地点で葉かび病を確認した。発生状況は、発病株率11.0%（平成26年3.1%）、発病度2.8（平成26年1.2）で平成26年に比べ多かった（図1、図2）。なお、発生が確認された品種は全て葉かび病抵抗性品種であった。
- (2) 普及指導員や病害虫防除員の聞き取りによると、発生は多い状況である。

### 5 防除対策

本年は、梅雨時期の長雨や日照不足により、葉かび病を中心にすすかび病、うどんこ病等の病害も同時に発生している。防除対策が不十分だと、これら病害が多発するので、以下の対策を徹底する。

- (1) 摘葉等による通風採光を図り、多湿にならないようにする。
- (2) 肥料切れや着果負担による草勢低下は、葉かび病やすすかび病の発病を助長するので適切な肥培管理に努める。これから着果数が多くなると、肥料切れしやすいので注意する。
- (3) 被害茎葉は伝染源となるので、早期に除去し、ほ場外で適正に処分する。
- (4) 多発してからの薬剤防除は難しいので、他の病害も含めた予防散布に重点を置く。
- (5) 葉かび病抵抗性品種でも発病する葉かび病菌が県内に広く分布しているため、品種に関係なく予防防除を行う（研究成果情報No.684「県内で発生するトマト葉かび病の防除は抵抗性品種への依存を避ける」参照）。
- (6) 県内のトマトで発生している葉かび病は、一部の薬剤に対する感受性が低下していることが確認されているため、使用に注意する（研究成果情報No.680「県内で発生しているトマト葉かび病の薬剤感受性」参照）。
- (7) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。なお、ミニトマトは、登録されている薬剤や対象病害等がトマトと異なる場合があるので注意する（表1参照）。

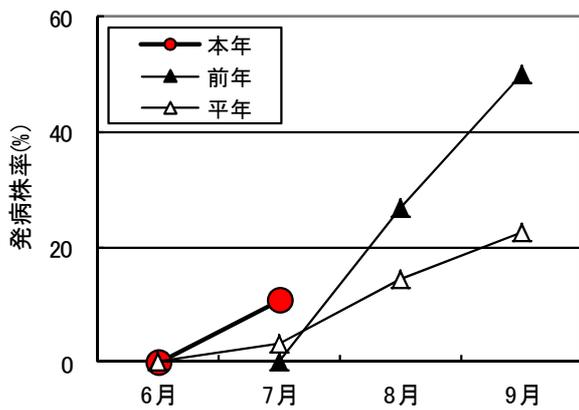


図1 葉かび病発病株率の推移

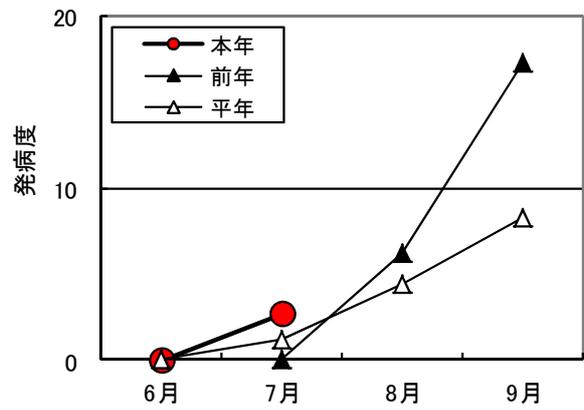


図2 葉かび病発病度の推移

表1 主な葉かび病等防除剤のトマト・ミニトマトにおける農薬登録状況

農薬名	ト マ ト			ミニトマト		
	葉かび病	すすかび病	うどんこ病	葉かび病	すすかび病	うどんこ病
アフェットフロアブル	○		○	○		○
アミスター20フロアブル	○					
シグナムWDG	○	○		○	○	
スコア顆粒水和剤	○	○				
ダイアメリットDF	○	○	○			
ファンタジスタ顆粒水和剤	○			○		
ベルコートフロアブル	○					
ベルコート水和剤				○		
ラリー乳剤	○			○		

平成27年度熊本県病害虫防除指針より一部抜粋(平成27年8月5日現在)。なお、農薬を使用の際には最新の登録情報を参照すること。



写真1 葉裏に発生した葉かび病



写真2 葉かび病発生ほ場

熊本県病害虫防除所  
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
 病害虫研究室 予察指導係)  
 担当：児玉、荒木 TEL 096-248-6490